

(9) 中国



中国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

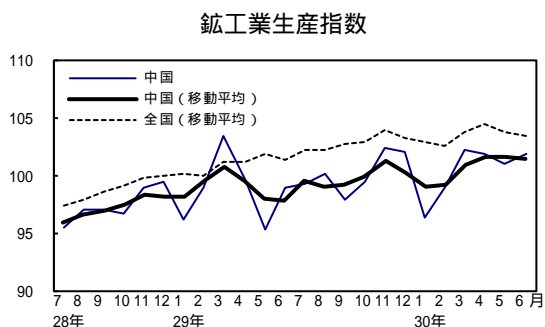
前回からの主要変更点

	前回(平成30年5月)	今回(平成30年8月)
景況判断	緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかな回復基調</u>
個人消費	持ち直しの動き	持ち直しの動きが続いているものの、 <u>足踏み</u>
住宅建設	増加	減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4 - 6月期には、輸送機械は、普通乗用車等が増加した。化学は、医薬品等が増加した。はん用・生産用・業務用機械は、トラクタ等が減少したものの、おおむね横ばいとなった。鉄鋼は、亜鉛めっき鋼板等が増加した。電子部品・デバイスは、光電変換素子等が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	23.5	1.9	10.0	8.5	11.2	5.5
化学	16.4	2.6	1.9	5.9	4.2	1.1
はん用・生産用・業務用機械	11.2	2.3	0.3	5.5	7.6	3.5
鉄鋼	7.7	1.8	0.9	0.9	0.2	2.8
電子部品・デバイス	7.1	1.3	7.1	1.2	0.8	6.3
鉱工業	100	2.1	2.4	0.4	0.8	0.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4 - 6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値。中国の最新月は速報値。

2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。

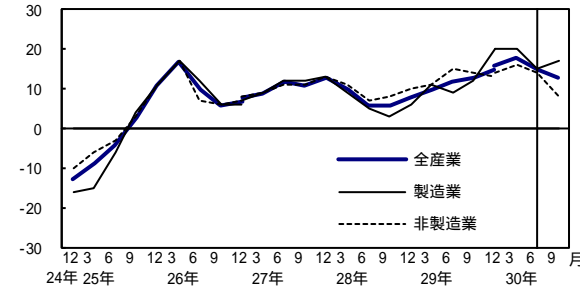
直近月は2か月平均。

(9) 中国

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

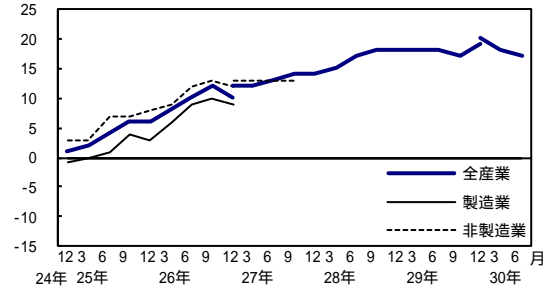
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



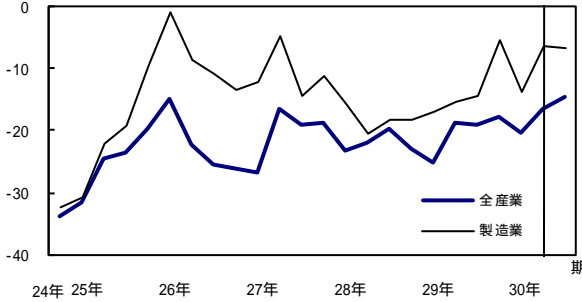
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年9月は予測。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]

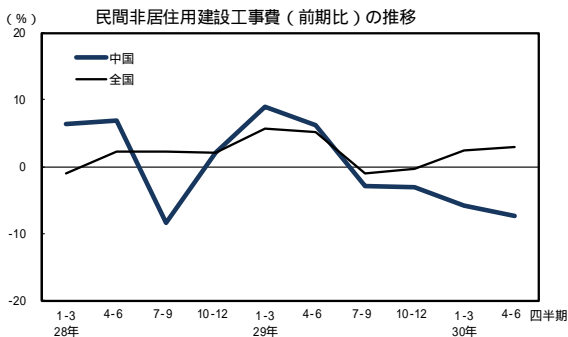


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「資機材等の納期遅延、品薄が予想されるが、平成30年7月豪雨災害の復旧工事等を含め、技術者の稼働は空きがない状況が続いている(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



(備考) 1. 季節調整値。

2. 30年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	29年度実績	30年度計画
全産業	4.6 (2.9)	13.6 (4.8)
製造業	5.4 (4.4)	19.1 (5.7)
非製造業	3.3 (0.5)	5.4 (3.4)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.1%減、5月は同0.0%減、6月は同0.7%増となった。

百貨店・スーパー販売額

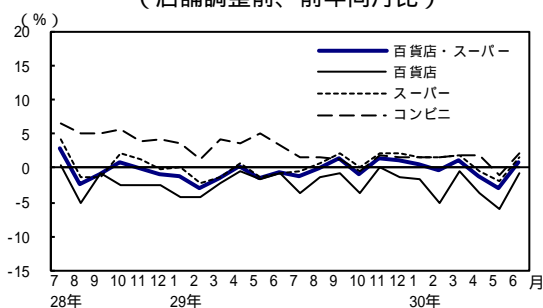
百貨店は、4月は、衣料品は3月後半によく売れたため動きが鈍く前年を下回った。5月は、雨の日が多く客数が伸び悩み前年を下回った。6月は、家庭用品などの動きが鈍く前年を下回った。

スーパーは、4 - 6月期は、飲食料品などが好調であったものの、衣料品などが低調で全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「平成30年7月豪雨災害により交通の便が悪くなり、商店街を含め大型店も売上が20~30%低下し、観光客数も激減している (商店街)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



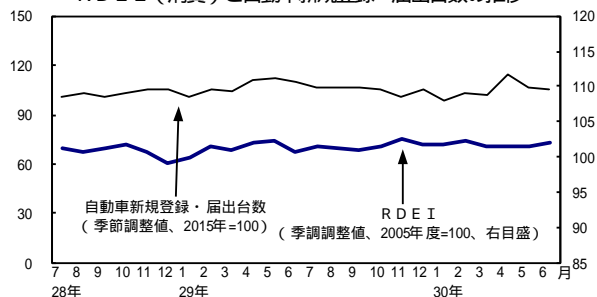
	30年4-6月	30年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.2	0.1	0.0	0.7
百貨店・スーパー(*2)	1.1	1.2	3.0	1.0
百貨店(*2)	3.3	3.6	5.9	0.6
スーパー(*2)	0.2	0.4	2.0	1.7
コンビニ(*2)	1.0	1.8	0.9	2.3
乗用車(*3)	1.7	4.7	3.9	4.9
(季節調整値)(*3)	7.8	12.7	6.9	1.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

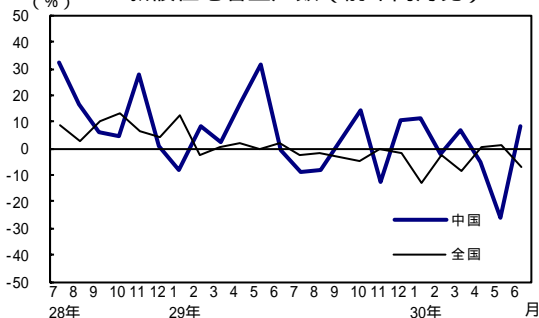


(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

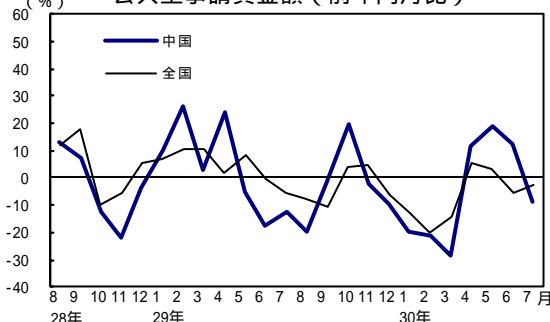
持家、貸家、分譲いずれも前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は30年度累計で見ると前年度を上回っている。

新設住宅着工戸数 (前年同月比)



公共工事請負金額 (前年同月比)



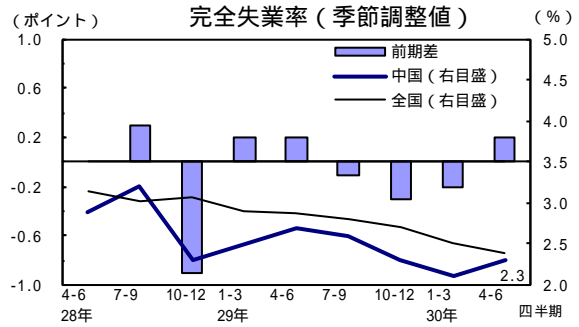
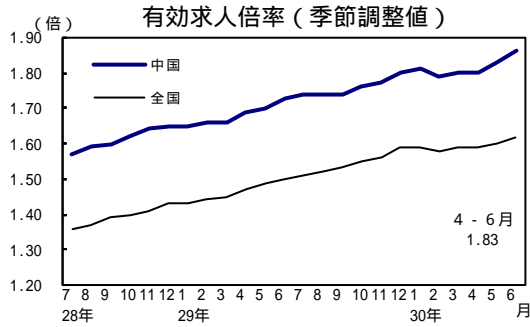
(9) 中国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[雇用関連(現状)]

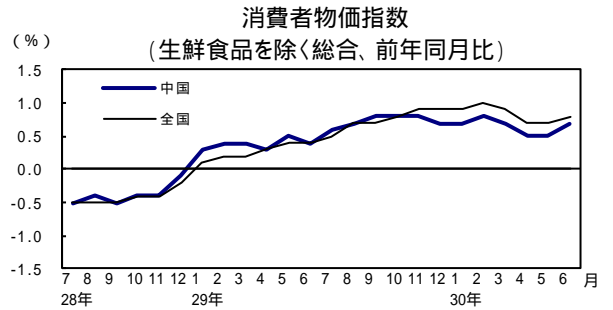
「例年は7月と8月を比べると、短期募集などもあり若干でも求人数に上向き傾向がみられるが、今年は平成30年7月豪雨の影響で上向かない(求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばい、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年7-9月	10-12月	30年1-3月	4-6月	30年7月
倒産件数	66	92	88	80	29
(前年比)	29.0	24.3	5.4	0.0	20.8
負債総額	135	323	128	97	38
(前年比)	10.7	43.8	77.4	14.0	32.6



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

